

平成 29 年漁期のあかいか(ソデイカ)漁業について

今漁期(平成 29 年漁期)のあかいか(ソデイカ)漁業について取りまとめましたのでお知らせします。

1 平成 29 年漁期の漁況

【兵庫県下各漁協(支所)の漁獲】

平成 29 年(2017 年)の漁獲量(速報値)は、但馬漁協津居山支所 16 トン(2016 年は 27 トン)、竹野支所 12 トン(同 26 トン)、柴山支所 15 トン(同 24 トン)、香住支所 52 トン(同 85 トン)、浜坂漁協 18 トン(同 32 トン)、**合計 113 トン**(同 194 トン)で、**過去 10 年平均の 60%と低迷**しました。(図 1)。

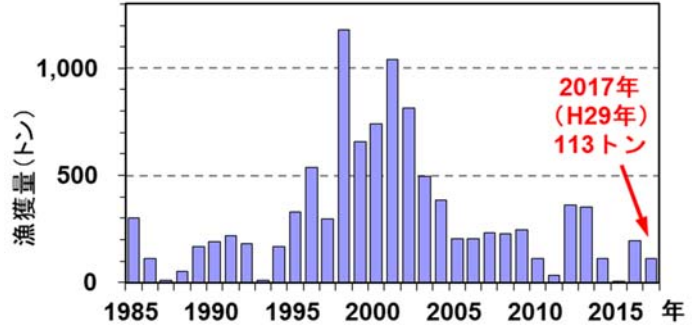


図 1 あかいか(ソデイカ)漁獲量の推移(但馬全体)

2 価格の推移

県下全域の漁獲金額(速報値)は、**合計 8,488 万円**(2016 年は 1 億 2,044 万円)でした。1kg あたりの平均単価は、8~12 月にかけて 740~850 円台で堅調に推移しました(図 2)。

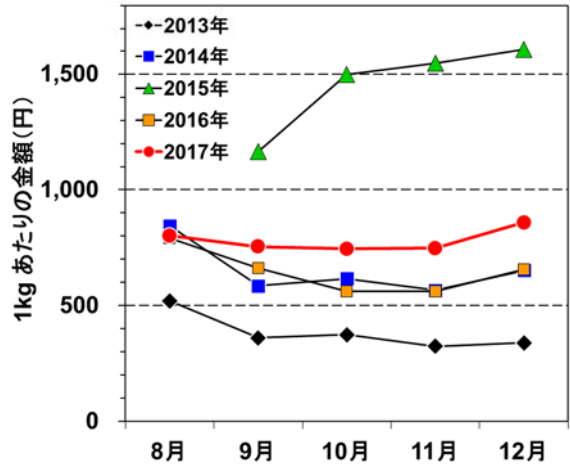


図 2 あかいか(ソデイカ)平均単価の推移(但馬全体)

3 漁況予報の結果

今年度、当センターでは、7 月 21 日に「あかいか(ソデイカ)長期漁況予報(予報期間: 9~11 月)」、10 月 5 日に「中短期予報(漁況経過と漁期後半の予報)」をそれぞれ発表しました。主な予報内容と結果は、以下のとおりです。

① 来遊水準・②平均漁獲量

来遊水準を「前年度漁期に比べて漁模様は「やや少なめ~かなり少なめ」となる見込み」と予報。

平均漁獲量を「1 日 1 隻あたりの漁獲量(9~11 月平均)は、114kg 前後の見込み」と予報。

結果: → △:『9~11 月の 1 日 1 隻あたりの平均漁獲量は 146kg で予測を上回りましたが、11 月以降の平均漁獲量が減少し、荒天等で操業隻数が伸びなかったこともあり、漁獲量は昨年および過去 10 年平均を下回りました。』

② 漁場

「山陰・若狭沖冷水域の張り出しは「かなり離岸」、対馬暖流域の 50m 深水温は「やや高め」で推移し、漁場形成は平年より沖合にまで広がる見込み」と予報(7 月)。

「山陰・若狭沖の冷水域は、但馬沿岸(概ね北緯 36°以南)に張り出す可能性は低い」、「好漁場の指標となる水深 100m における水温 15°C の等温線の配置は、9 月中・下旬には沿岸近くにあったが、今後は徐々に北上するため漁場は拡散する」と予報(10 月)。

結果: → ○:『冷水域の張り出しは弱く、50m 深水温はやや高め~平年並みでした。』

4 その他

例年 10 月頃にみられる新たな小型サイズの群の加入が少なかったものの、9 月中旬から 10 月下旬にかけて好調であり、今漁期の漁獲量の約 8 割を占めました。ソデイカ漁業は南方からの来遊量の影響が大きく、近年漁獲量の変動が大きくなっており、継続してデータを蓄積していくことが重要となります。**今後も、引き続き調査へのご協力をよろしくお願いいたします。**

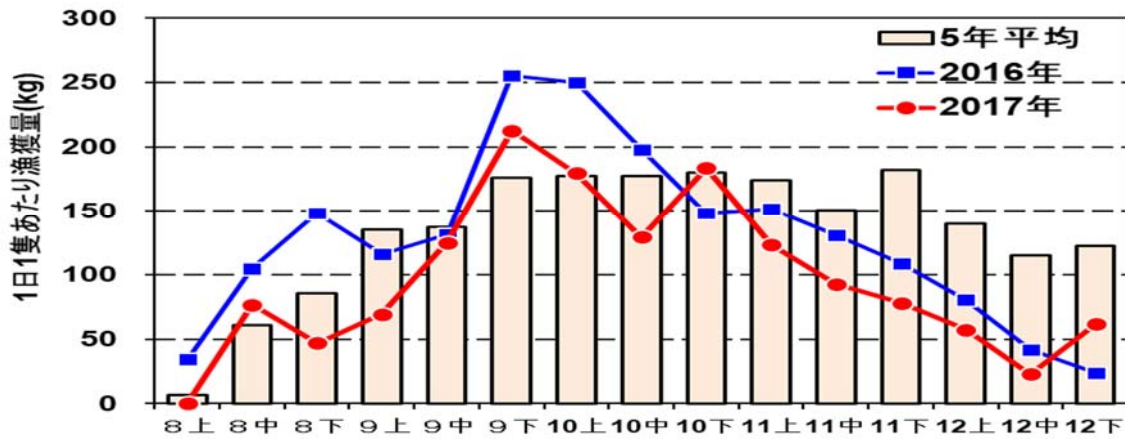


図3 あかいか(ソデイカ)来遊量指標の旬別推移

※来遊量指標は JF 但馬香住支所の 1日1隻あたりの平均漁獲量

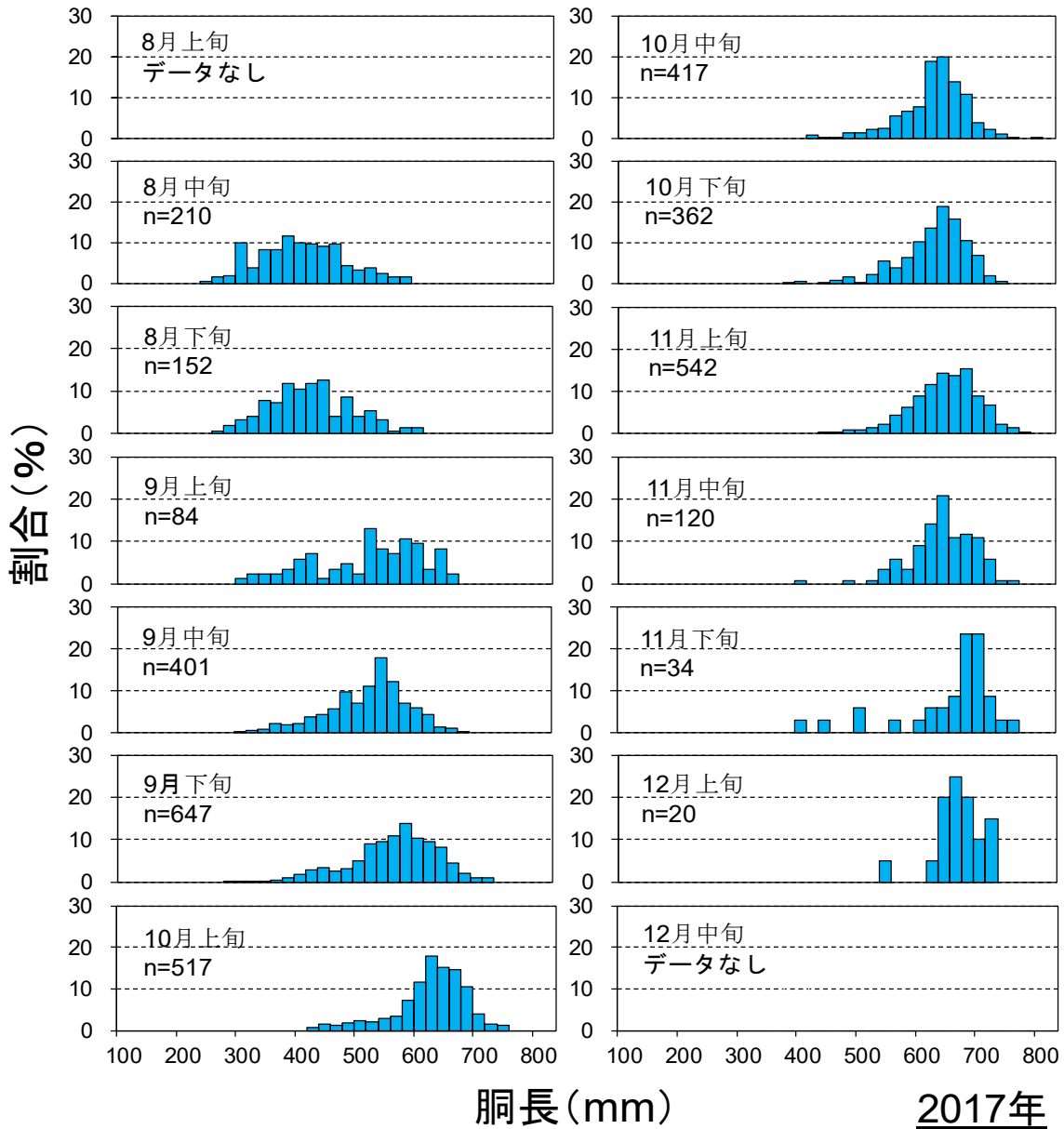


図4 2017年漁期の JF 但馬香住支所に水揚げされたあかいか(ソデイカ)の体長組成

※nは各旬に測定したあかいか(ソデイカ)の数を示します。

※なお、胴長を体重に換算すると、概ね次のとおりとなります。

300 mm = 1.0 kg、400 mm = 2.4 kg、500 mm = 4.7 kg、600 mm = 8.0 kg、700 mm = 12.7 kg、800 mm = 19.0 kg